令 和 ８年 度
歯科衛生士科

２年次　前期
授業計画〈シラバス〉

〒770-0003
徳島市北田宮１丁目８番６５号
一般社団法人　徳島県歯科医師会
会立　徳島歯科学院専門学校

歯科衛生士科　講師紹介
2年　前期

専門分野	授業科目	単位数	時間・回数	所属・講師名	資格	臨床経験	ページ
基礎分野	人間と生活 心理学	2	32時間 90分×16	鳴門教育大学　公認心理師 原田　ﾘｮｳ　先生	公認心理師 臨床心理士	有	1,2
専門基礎分野	人体の構造と機能 生化学	1	16時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部　生体栄養学分野 栄養士　奥野　紗綺　先生	栄養士		3,4
	臨床歯科医学 歯周治療学	1	28時間 90分×14	徳島大学大学院医歯薬学研究部　歯周歯内治療学分野 板東　美香　先生	歯科医師	有	5,6
	臨床歯科医学 歯科補綴学	1	28時間 90分×6	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔顎顔面補綴学分野 渡邉　恵　先生	歯科医師	有	7,8
			90分×6	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔顎顔面補綴学分野 松田　岳　先生	歯科医師	有	
			90分×2	徳島大学　名誉教授 市川　哲雄　先生	歯科医師	有	
	臨床歯科医学 口腔外科学	1	28時間 90分×12	徳島大学　名誉教授 宮本　洋二　先生	歯科医師	有	9,10
			90分×2	徳島大学病院　歯科麻酔科 江口　覚　先生	歯科医師	有	
	臨床歯科医学 小児歯科学	1	28時間 90分×14	徳島大学大学院医歯薬学研究部　小児歯科学分野 長谷川　智一　先生	歯科医師	有	11,12
	臨床歯科医学 矯正歯科学	1	28時間 90分×14	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔顎顔面矯正学分野 金城　聡一郎　先生	歯科医師	有	13,14
	臨床歯科医学 障害者歯科学	1	20時間 90分×10	徳島大学大学院医歯薬学研究部　小児歯科学分野 水村 江里　先生	歯科医師	有	15,16
	臨床歯科医学 歯科放射線学	1	32時間 90分×16	徳島大学大学院医歯薬学研究部　歯科放射線学分野 水頭　英樹　先生	歯科医師	有	17,18
	歯科予防処置論 う蝕予防処置法Ⅱ	6 (1学年・2学年総合)	年間32時間 90分×16	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　溝江　里美	歯科衛生士	有	19,20
	歯科予防処置論 歯周病予防処置法Ⅱ		年間68時間 90分×34	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　溝江　里美	歯科衛生士	有	21,22
	歯科保健指導論 歯科保健指導Ⅱ	7 (1学年・2学年総合)	年間90時間 90分×45	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　福井　かおり	歯科衛生士	有	23～25
	歯科診療補助論 歯科診療補助法Ⅱ	7 (1学年・2学年総合)	年間120時間 90分×60	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　宮川　彰代	歯科衛生士	有	26～29
選択必須分野	ヒューマンスキル 医療コミュニケーション学	1	16時間 90分×8	徳島歯科学院専門学校 教務主任　伊賀　弘起	歯科医師	有	30

備考

科目分野	基 礎 分 野	科目名	心理学
学年	2年次	学期	前 期
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	2 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(2)
担当教員	原田 リョウ	児童養護施設にて公認心理師として実務経験あり／博士課程にて研究に従事	

授業の目的(GIO)

心理学の基礎となる知識を学び、心理学の概要を理解することを目的とする。

授業の概要

心理学の歴史から、知覚心理学、発達心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学など理論を背景に講義を行います。ワークを実施し、理論を体験に落とし込み、理解を深めてもらいます。

到達目標(SBOs)

1. 心理学の歴史をもとに、基礎心理学と応用心理学に関する概要が述べられる。
2. 基礎心理学の知覚心理学について、身近な例を用いて概説ができる。
3. 記憶の中で、知識に関する記憶が果たす役割について述べることができる。
4. 記憶のメカニズムが、日常の記憶にどのように繋がっているかを述べることができる。
5. 乳児期から幼児期までの発達の過程を、発達理論に基づいて概説できる。
6. 老年期までの発達の過程を、ライフサイクル理論に基づいて概説できる。
7. これまでに学んだ発達理論から、言語・社会性・自己の発達に発展させて説明できる。
8. 自分と他者をどのように認知しているかを理解し、対人認知について述べることができる。
9. 学校や職場などの集団・組織心理を理解し、日常生活に適応できる。
10. 情動・気分・好みの3つの感情について理解し、感情とモチベーションの関係を概説できる。
11. パーソナリティの捉え方(特性論・類型論)の違いを理解し、説明できる。
12. パーソナリティの測定と、様々なパーソナリティ障害の特徴について概説できる。
13. ストレス理論とストレスコーピングについて、ワークから体験的に理解し、説明できる。
14. さまざまな精神疾患と、それらを測定する心理検査について概説できる。
15. 自身の対人関係の結び方を内省し、アサーティブな自己主張を身につける。
16. 心理臨床の実際と、カウンセリング・心理療法の意義について説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	ガイダンス 心理学とは	ガイダンス／心理学の概要／心理学と領域	授業の進め方、基礎心理学・応用心理学の概要について学ぶ	1	原田
2	知覚・認知・注意	知覚(形・空間・運動)／認知／注意	人間が環境から情報をどのように知覚し、認知・注意するのかを学ぶ。	2	原田
3	記憶(1)	記憶のメカニズム／知識としての記憶	記憶の果たす役割について学ぶ。	3	原田
4	記憶(2)	日常における記憶／想起と忘却／記憶法	日常生活で記憶がもたらす作用について学ぶ。	4	原田
5	発達(1)	発達とは／発達理論(ピアジェ)	ピアジェの発達理論から幼児期までの、発達の過程を捉える。	5	原田
6	発達(2)	発達理論(エリクソン)／ワーク	エリクソンの発達理論から老年期までの、発達課題と危機を学ぶ。	6	原田
7	発達(3)	言語の発達／社会性の発達／自己の発達	3つの発達の視点から、発達を捉える。	7	原田
8	対人認知	対人関係の認知／印象形成／帰属／説得と態度変容	自他を認知するメカニズムについて学ぶ。	8	原田
9	集団認知	集団認知／集団からの影響	集団における対人認知が及ぼす影響について学ぶ。	9	原田
10	感情	感情とは／感情の3つの側面／動機づけ	感情のメカニズムとモチベーションとの関連について学ぶ。	10	原田
11	パーソナリティ(1)	パーソナリティとは／パーソナリティ理論(特性論・類型論)	特性論・類型論からパーソナリティの捉え方を学ぶ。	11	原田
12	パーソナリティ(2)	パーソナリティ検査／パーソナリティ障害	パーソナリティを測る方法、パーソナリティの病理について学ぶ。	12	原田

13	ストレス	ストレスのメカニズム／ライフイベントとストレス／対処	ストレス理論に基づいて、ストレスについて理解し、対処法を学ぶ。	13	原田
14	メンタルヘルス	メンタルヘルスとは／精神疾患の分類／心理検査	さまざまな精神障害と、心理療法の担う役割について学ぶ。	14	原田
15	アサーション	テスト・論述／アサーション	適切な自己主張をアサーション理論から学ぶ。	15	原田
16	心理臨床	心理臨床の実践領域／心理療法とカウンセリング／心理療法	基礎心理学が、どのように心理臨床に活用されるかについて学ぶ。	16	福森

教科書

プリントを配布します

参考書

必要に応じて紹介します

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、第15回に実施するテストと論述から主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とします。

備考

毎回リアクションペーパー（感想、学んだこと、質問等）を提出してもらいます。

科目分野	専門基礎分野	科目名	生化学
学年	2年次	学期	前期
時間数	16 時間 (90 分 × 8)	単位数	1 単位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	奥野 紗綺		

授業の目的(GIO)

歯科衛生士になるにあたって必要な生化学の知識を身につける

授業の概要

主に配布プリントを中心に授業を進める。

到達目標(SBOs)

1. 生命の基本である細胞の構造や細胞小器官の働きを理解する。
2. 生体の反応に必要な水の働きの理解を深める。
3. 生体構成成分と栄養素についての理解を深める。
4. 細胞内で起こる代謝(エネルギー代謝、分解、合成)について理解する。
5. 歯と歯周組織について理解する。
6. ヒドロキシアパタイトなど、歯の無機成分について理解する。
7. 歯の有機成分について理解する。
8. カルシウムとリン酸について学び、石灰化の仕組みを説明できるようになる。
9. カルシウム動態に関わるホルモンの役割を学ぶ。
10. 歯の脱灰と再石灰化を理解する。
11. 唾液中の無機物及び有機質の作用を理解する。
12. プラークの種類と生成について学ぶ。
13. う蝕におけるプラークの関わりを理解する。
14. 歯周疾患と生体防御反応の関わりを理解する。
15. 今まで習ってきた知識を整理し活用できるように理解を深める。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	人体の構成要素	細胞の役割	細胞及び水の性質について	1.2	奥野
2	生体における化学反応	生体構成成分と栄養素	三大栄養素の合成や代謝	3.4	奥野
3	歯と歯周組織の生化学	歯と歯周組織	歯周組織の構造と成分について	5	奥野
4			歯の構造と成分について	6.7	奥野
5	硬組織の生化学	石灰化のメカニズム	歯の生成と吸収について	8.9.10	奥野
6	唾液の生化学	唾液の組成と機能	唾液の組成と働きについて	11	奥野
7	プラークの生化学	プラークの形成	プラークよるう蝕発生機構ついて	12.13	奥野
8	まとめ	歯と栄養	栄養及びう蝕の発生について	14.15	奥野

教科書

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学 (医歯薬出版株式会社)

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。
備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	歯周治療学
学年	2年次	学期	前 期
時間数	28 時間 (90 分 × 14 回)	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(2)
担当教員	板東 美香	大学病院で歯科医師として実務経験あり	

授業の目的(GIO)

歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する

授業の概要

歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する

到達目標(SBOs)

1. 正常な歯周組織の構造と機能を説明できる。
2. 歯周病の分類と原因を説明できる。
3. 歯周病と全身疾患の関連を説明できる。
4. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。
5. 歯周治療の流れを説明できる。
6. 歯周基本治療の目的と術式を説明できる。
7. 歯周外科治療の目的と術式を説明できる。
8. 口腔機能回復治療の目的と内容を説明できる。
9. メインテナンス、SPTの目的と内容を説明できる。
10. 歯周治療における歯科衛生士の業務を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯周治療の基礎知識	歯周疾患の現状と治療	歯周病の有病状況	1	板東
2	歯周治療の基礎知識	正常な歯周組織の構造と機能	歯周組織の構造と機能とインプラント周囲組織の特徴	1	板東
3	歯周治療の基礎知識	歯周病の種類と病態	歯周病の分類と原因・リスクファクター	2	板東
4	歯周治療の基礎知識	ペリオドンタルメディシン	歯周病に関連する全身疾患について	3	板東
5	歯周治療の実際	歯周治療の進め方 歯周病の検査	歯周病の検査・診断・治療指針	4,5	板東
6	歯周治療の実際	歯周基本治療	歯周基本治療の目的と方法	6	板東
7	歯周治療の実際	歯周外科治療	歯周外科治療の目的および分類	7	板東
8	歯周治療の実際	歯周外科治療	歯周外科治療で用いる器具・器材	7	板東
9	歯周治療の実際	口腔機能回復治療	口腔機能回復治療の目的と方法	8	板東
10	歯周治療の実際	口腔機能回復治療	インプラント治療について	8	板東
11	歯周治療の実際	メインテナンス、SPT	メインテナンス(SPT)の重要性と方法	9	板東
12	歯周治療における歯科衛生士の業務	口腔衛生管理における役割	歯周病のリスクファクターに対する口腔衛生管理	10	板東
13	歯周治療における歯科衛生士の業務	歯周治療時の役割	各治療ステージにおける歯科衛生士の具体的役割	10	板東
14	歯周治療における歯科衛生士の業務	歯科衛生過程と事例	歯科衛生過程の構成・事例	10	板東

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版 (全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社)

参考書

適宜、プリントで配布する。

試験の受験資格 3分の2以上の出席
成績評価の方法 授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。
備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	歯科補綴学
学年	2年次	学期	前 期
時間数	28 時間 (90 分 × 14 回)	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(2)
担当教員	渡邉恵／松田岳／市川哲雄	大学病院で歯科医師として実務経験あり	

授業の目的(GIO)

歯科衛生士業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部，あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する

授業の概要

歯と口腔，顎機能の大切さを認識し，固定性義歯，可撤性義歯，インプラント義歯全てを含む歯科補綴学の学理と術式の基本的事項及び診療補助について修得する

到達目標(SBOs)

1. 歯および歯列の形態と位置関係，顎口腔系の機能，咬合を説明できる
2. 歯の欠損に伴う生理的変化を説明できる
3. 補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を概説できる
4. 補綴装置の種類と適応を説明できる
5. 支台装置とポンティックの選択，特徴および製作法を概説できる
6. ブリッジの特徴・構成を説明できる
7. 有床義歯の支持装置，把持装置および維持装置を説明できる
8. インプラント治療の特徴を説明できる
9. 補綴歯科治療に用いられる器材を説明できる
10. 補綴歯科治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる
11. 補綴歯科治療における患者への説明と指導を説明できる
12. 補綴歯科治療に関連する併発症とその対応を説明できる
13. 補綴歯科治療における器材管理の概要を説明できる

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯科補綴学	概説	補綴歯科治療の意義と目的	1	松田
2	〃	〃	補綴歯科治療の方法と補綴装置	4	〃
3	〃	補綴歯科治療の基礎知識	歯の欠損・喪失に伴う変化・障害	1,2	松田
4	〃	〃	歯列と咬合、口腔機能	1,2	〃
5	〃	検査・診断	医療面接 補綴歯科治療に必要な検査	1-3,9	渡邉
6	〃	〃	咬合と顎口腔機能の検査	1-3,9	〃
7	〃	クラウン・ブリッジ	治療の概要	4-6,9	渡邉
8	〃	〃	臨床ステップの概説	3,9-12	〃
9	〃	有床義歯	治療の概要	4,7,9	松田
10	〃	〃	臨床ステップの概説	3,9-12	〃
11	〃	インプラント	治療の概要	4,8,9	渡邉
12	〃	〃	臨床ステップの概説	3,9-12	〃
13	〃	特殊な口腔内装置を用いる治療	口腔内装置の種類と適応 臨床ステップの概説	3,4	市川
14	〃	補綴歯科治療における器材の管理	診療室・器材・技工物の管理について	13	〃

教科書 歯科衛生学シリーズ　歯科補綴学　第1版（一般社団法人　全国歯科衛生士教育協議会　監修　　医歯薬出版）
参考書 特になし
試験の受験資格 3分の2以上の出席
成績評価の方法 授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。
備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	口腔外科学(歯科麻酔分野を含む)
学年	2年次	学期	前 期
時間数	28 時間 (90 分 × 14 回)	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(2)
担当教員	宮本 洋二、江口 覚		大学病院で歯科医療に従事もしくは経験あり

授業の目的(GIO)

口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために、口腔外科疾患の診断、治療に関する基本的知識を理解し、実際の診療の即した介助、準備について習得する。

授業の概要

顎・口腔領域に生じる口腔外科的疾患の特徴と症状、診断法と治療法を学び、その中で歯科衛生士が果たす役割を考え、臨床の場に対応できるようにする。

到達目標(SBOs)

1. 顎・口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。
2. 歯の外傷、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法を概説できる。
3. 先天異常(口唇・ 口蓋裂など)と発育異常(顎変形症など)の症状と治療法を概説できる。
4. 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法を概説できる。
5. 顎. 口腔領域の神経系疾患や血液疾患の特徴を概説できる。
6. 歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症(歯性感染)の原因、感染経路と症状および治療法を概説できる。
7. 各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる。
8. 顎・ 口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を概説できる。
9. 唾液腺疾患(唾液腺炎、流行性耳下腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍)の症状と治療法を概説できる。
10. 顎関節疾患(脱臼、顎関節症、顎関節強直症など)の症状と治療法を概説
11. 抜歯の適応、禁忌と手技を概説できる
12. 口腔外科小手術(止血処置、歯槽骨整形術、嚢胞摘出術・嚢胞開窓術、インプラント手術)の手順を説明できる。
13. バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度や局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる。
14. 精神鎮静法、全身麻酔法の適応症と種類を説明できる
15. 歯科治療時の全身的偶発症とその対応や一次救命処置を説明できる

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	口腔外科学の概要	口腔外科学の特徴	口腔外科疾患の種類、口腔外科における歯科衛生士の役割	1	宮本
2	損 傷	損傷の種類、創傷治癒、治療	歯の損傷、軟組織の損傷、骨折	2	宮本
3	先天異常・発育異常	歯・軟組織および顎骨の異常	口唇裂・口蓋裂、顎変形症	3	宮本
4	嚢 胞	嚢胞の定義、成因、診断・治療	顎骨に発生する嚢胞、軟組織に発生する嚢胞、偽嚢胞	4	宮本
5	神経系疾患・血液疾患	神経系疾患の診断・治療、血液疾患の概要	神経痛、神経麻痺、貧血、白血病、出血性素因	5	宮本
6	炎 症	炎症、口腔感染症の特徴、菌血症・敗血症、SIRS	顎骨の炎症、顎骨周囲組織の炎症、特異性炎	6	宮本
7	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の成因、診断、治療	潰瘍、水泡、紅斑・びらん、白斑を主徴とする疾患	7	宮本
8	腫 瘍	腫瘍の病因、診断、治療	良性腫瘍(歯原性、非歯原性)、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患	8	宮本
9	唾液腺疾患	唾液腺疾患の概要、診断、治療	唾液腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍、口腔乾燥症	9	宮本
10	顎関節疾患	顎関節の構造と顎関節疾患の成因、診断、治療	顎関節疾患の成因	10	宮本
11	口腔外科診療の実際①	口腔外科手術の準備、手術の基本手技	消毒・滅菌、手洗い、防護具の着用、切開、止血、縫合処置	11	宮本
12	口腔外科診療の実際②	口腔外科小手術の介助の実際	抜歯術、小帯切除術、歯根尖切除術、嚢胞摘出術、腫瘍切除術、口腔インプラント	12	宮本
13	歯科麻酔	歯科麻酔と全身管理 局所麻酔	全身状態の評価 局所麻酔	13	江口
14	歯科麻酔	鎮静麻酔 全身麻酔,救急蘇生	鎮静麻酔 全身麻酔,歯科治療時の全身的偶発症	14	江口

教科書 歯科衛生学シリーズ　第2版　口腔外科学・歯科麻酔学 （全国歯科衛生士教育協議会　監修　　医歯薬出版株式会社）
参考書 適宜、プリント配布
試験の受験資格 3分の2以上の出席
成績評価の方法 授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。
備考 時間的制約があり、実技実習の補填のため適宜、動画などで歯科麻酔分野の内容を補足します。

科目分野	専 門 分 野	科目名	小児歯科学
学年	2年次	学期	前 期
時間数	28 時間 (90 分 × 14 回)	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(2)
担当教員	長谷川 智一 大学病院で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

健全な永久歯列を完成することが小児歯科の目的である。成長期の小児を理解することと、障害となりうる疾患、形成異常、習癖の治療と予防、食生活指導、口腔衛生指導を理解する。

授業の概要

無歯期、乳歯列期、混合歯列期および永久歯列期の発育段階を理解し、臨床で必要な介助や指導を行えるようにさまざまな知識、技術を習得するための講義を行う。

到達目標(SBOs)

1. 小児歯科の特徴・目的を理解し、説明する。
2. 小児の発育段階とその時期の口腔の変化を説明する。
3. 発育の概念・原則を理解し、説明する。
4. 小児期の分類とその特徴、および小児の発育状態を評価する方法を説明する。
5. 生理的年齢、器官の発育の特徴を説明する。
6. 言語、情動、運動機能および摂食・嚥下機能の発達について説明する。
7. 小児のバイタルサインとその特徴を説明する。
8. 小児の薬物感受性の特徴を理解し、薬剤処方について説明する。
9. 脳頭蓋、顔面頭蓋の発育の特徴、上下顎の発育と成長様式を説明する。
10. 顎顔面頭蓋の発育の評価法、顎顔面頭蓋の発育と歯の萌出との関係を概説する。
11. 乳歯・幼若永久歯の特徴を説明する。
12. 歯の発育・形成異常を説明する。
13. 歯の萌出時期・時期・萌出異常を説明する。
14. 歯列の発育分類、各歯列の臨床的特徴を説明する。
15. ヘルマンの咬合発育段階を説明する。
16. 歯列・咬合・口腔習癖による咬合の異常について説明する。
17. 乳歯・幼若永久歯の特徴を説明する。
18 小児のう蝕の原因と予防法を説明できる。
19 乳歯・幼若永久歯のう蝕の特徴を説明する。
20 小児の軟組織の特徴と疾患を説明する。
21 小児の歯肉炎・歯周炎を説明できる。
22 口唇裂・口蓋裂の問題点と小児歯科のかかわりを説明できる。
23 小児虐待の現状・種類・原因を説明できる。
24 小児期の特徴と歯科的問題点を説明できる。
25 小児歯科における患者との対応法について説明できる。
26 小児歯科における診療体系を説明できる。
27 小児の歯冠修復、歯内療法、外科処置、外傷の処置を説明できる。
28 咬合誘導の意味を説明できる。
29 う蝕の予防方法について説明できる。
30 障害児の歯科治療について説明する。
30 小児歯科におけるう蝕予防について説明できる。
31 小児の口腔健康管理の目的・内容を説明できる。
32 小児歯科診療室の特徴、設備、器具や材料の管理について説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	小児歯科診療の基礎知識	小児歯科学概論 心身の発育	小児歯科の目的・発育段階と口腔の変化 成長と発育の定義・発育段階の評価・生理的年齢	1,2,3,4,5,6	長谷川
2	小児歯科診療の基礎知識	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育	バイタルサインと生理的特徴・薬剤処方と薬物療法 脳頭蓋・顔面頭蓋の発育と特徴	7,8,9,10	長谷川
3	小児歯科診療の基礎知識	歯の発育とその異常	乳歯・幼若永久歯の特徴・歯の発育段階と形成異常 乳歯・永久歯の萌出順序・萌出異常	11,12,13,14,15	長谷川

4	小児歯科診療の 基礎知識	歯の発育とその異常 歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の発育と異常	16,17,18,19	長谷川
5	小児歯科診療の 基礎知識	小児の歯科疾患	乳歯・幼若永久歯のう蝕 小児みられる歯周疾患・軟組織の異常と疾患	18,19,20,21,22	長谷川
6	小児歯科診療の基礎知識 小児歯科診療と歯科衛生士の役割	小児虐待 小児歯科における患者との対応法	小児虐待 小児の特徴と歯科的問題点・小児歯科における患者との 対応法	23,24,25	長谷川
7	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	小児歯科における診療体系	小児歯科診療とその特徴・原則母親教室 麻酔法・歯冠修復	26,27	長谷川
8	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	小児歯科における診療体系	歯内療法・小児の外科的処置	27	長谷川
9	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	小児歯科における診療体系	外傷・咬合誘導	27,28	長谷川
10	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	小児歯科における診療体系	フッ化ジアンミン塗布 リコール（定期健診）	29	長谷川
11	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	障害児の歯科治療	障害児における歯科的対応法	30	長谷川
12	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	う蝕予防	プラークコントロール・フッ化物の応用 小窩裂溝填塞法・代用甘味料・食生活指導	29	長谷川
13	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	小児の口腔健康管理	目的・方法・検査と指導	31	長谷川
14	小児歯科診療と 歯科衛生士の役割	歯科診療室と器材の管理	歯科診療室の管理 器材の管理	32	長谷川

教科書

歯科衛生学シリーズ　小児歯科学　（医歯薬出版）

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	矯正歯科学
学年	2年次	学期	前 期
時間数	28 時間 (90 分 × 14 回)	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(2)
担当教員	金城 聡一郎	大学病院で歯科医師として臨床経験あり	

授業の目的(GIO)

歯科衛生業務を行う上で必要な不正咬合の症状および治療法を理解する

授業の概要

顎顔面の成長、発育および歯列や咬合について理解し、不正咬合の診断学および治療学を学ぶ

到達目標(SBOs)

1. 顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる。
2. 成長発育に伴う正常咬合(乳歯列から永久歯列)を説明できる。
3. 不正咬合の原因と種類を列挙できる。
4. 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる。
5. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。
6. 矯正装置の種類、構造および機能を説明できる。
7. 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。
8. 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理法を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	矯正歯科治療に関する基礎知識	歯科矯正学概論	歯科矯正学の定義、矯正治療の目的	4	金城
2	矯正歯科治療に関する基礎知識	成長発育	頭部・顎・顔面の成長発育、歯・歯列の成長発育	1	金城
3	矯正歯科治療に関する基礎知識	咬合(1)	正常咬合と不正咬合	2,3	金城
4	矯正歯科治療に関する基礎知識	咬合(2)	不正咬合の分類の原因・予防	1,2,3	金城
5	矯正歯科治療に関する基礎知識	口腔習癖	習癖と不正咬合	3,4	金城
6	矯正歯科治療に関する基礎知識	矯正治療の生物力学	矯正力と歯の移動	5	金城
7	矯正歯科治療に関する基礎知識	矯正診断(1)	診断法	1,3	金城
8	矯正歯科治療に関する基礎知識	矯正診断(2)	治療方針の立て方	4,5,6	金城
9	矯正歯科治療に関する基礎知識	矯正装置および治療(1)	装置の種類と目的	5,6	金城
10	矯正歯科治療に関する基礎知識	矯正装置および治療(2)	装置の種類と目的，保定	4,5,6	金城
11	矯正歯科治療に関する基礎知識	矯正治療に用いる器材とその取扱い方	器材の名称と取り扱い方	5,7	金城
12	矯正歯科治療の実際	Ⅰ期治療	乳歯列期・混合歯列期の矯正治療	2,3,4,6	金城
13	矯正歯科治療の実際	Ⅱ期治療	永久歯列期・口唇裂・口蓋裂・先天異常者の矯正治療	1,3,4,6	金城
14	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	矯正歯科診療時の業務と口腔保健管理	患者教育・口腔衛生指導等	7,8	金城

教科書

歯科衛生学シリーズ　歯科矯正学

参考書

適宜、プリントを配布します。

試験の受験資格 3分の2以上の出席
成績評価の方法 授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。
備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	障害者歯科学
学年	2年次	学期	前 期
時間数	20 時間 (90 分 × 10 回)	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(2)
担当教員	水村江里		

授業の目的(GIO)

歯科衛生士にとって必須のスペシャルニーズ（臨床の場で必要な特別な配慮）を理解し、対応するときに基本となる考え方、知識と技術を知る。

授業の概要

障害の概念、歯科医療で特別な支援を必要とする疾患、障害者の行動調整、健康支援と口腔衛生管理、リスク評価と安全管理、摂食嚥下リハビリテーションおよび地域における障害者歯科を学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. スペシャルニーズおよび障害者の概念を説明できる。
2. ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。
3. 障害のある人と福祉制度について説明できる。
4. 神経発達症群、運動・感覚・音声言語・精神障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。
5. 障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる。
6. 行動療法(行動変容)と歯科衛生士の役割を説明できる。
7. 体動のコントロールと歯科衛生士の役割を説明できる。
8. 薬物を用いた行動調整と歯科衛生士の役割を説明できる。
9. 障害のある人の器質的口腔ケアを説明できる。
10. 障害のある人の機能的口腔ケアを説明できる。
11. 障害者歯科におけるリスクおよびリスク評価について説明できる。
12. 医療機関における安全管理の概要を説明できる。
13. 障害者歯科における感染対策の基本を説明できる。
14. 障害者歯科における感染予防対策の留意点を列挙できる。
15. 摂食嚥下障害の評価法、口腔管理および栄養管理について説明できる。
16. 小児期・成人期・老年期の摂食嚥下障害の評価と対処法について説明できる。
17. 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割を説明できる。
18. 一次・二次・三次医療機関の役割ならびに歯科衛生士の役割を説明できる。
19. 障害者歯科と関連する職種を説明できる。
20. 行政および地域、歯科訪問診療における歯科衛生士の役割を説明できる。
21. 障害者歯科における歯科衛生過程

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	障害の概念	スペシャルニーズ	障害の分類、ノーマライゼーションとバリアフリー、医療・福祉制度	1, 2, 3	水村
2	特別な支援が必要な疾患	神経発達症群	行動障害、口腔と歯の特徴、歯科業務における留意点	4	水村
3	特別な支援が必要な疾患	感覚障害	行動障害、口腔と歯の特徴、歯科業務における留意点	4	水村
4	特別な支援が必要な疾患	感覚・音声言語・精神および行動障害	行動障害、口腔と歯の特徴、歯科業務における留意点	4	水村
5	行動調整	コミュニケーション、行動療法	障害別のコミュニケーション法、各種の行動療法	5 ,6	水村
6	行動調整	体動のコントロール、薬物的行動調整法	体動コントロールの目的と歯科衛生士の役割、鎮静法、全身麻酔	7, 8	水村
7	健康支援と口腔衛生管理	専門的口腔ケア	器質的口腔ケア、機能的口腔ケア、歯科訪問診療	9, 10	水村
8	リスク評価と安全管理 摂食嚥下リハビリテーション	リスク評価、摂食嚥下障害	障害別のリスク、医療安全管理体制、感染制御体制、摂食5期、栄養管理	11, 12, 13, 14, 15	水村
9	摂食嚥下リハビリテーション	摂食機能療法	小児期・成人期・老年期の摂食嚥下障害への対処法	16, 17	水村

10	障害者歯科における歯科衛生過程、まとめ	地域医療連携、一次・二次・三次医療機関	障害者歯科と関連職種、保健・医療・福祉のネットワーク、一次・二次・三次医療機関における障害者歯科	18，19，20，21	水村

教科書

歯科衛生学シリーズ　障害者歯科学　第2版　医歯薬出版

参考書

授業プリント

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	歯科放射線学
学年	2年次	学期	前 期
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	2 単 位
授業形態	講義,実習	使用場所	2F教室(2)
担当教員	水頭英樹	大学病院で歯科医師として実務経験有り	

授業の目的(GIO)

歯科における画像検査法を理解し、臨床の場において歯科衛生士としてエックス線検査補助を行える知識と技能を習得する。

授業の概要

教科書に沿った講義を行い、随時スライド（プリント）で補助的解説を行う。一通りの講義を終えた後、相互撮影実習、練習問題解答、まとめ講義などを行う。

到達目標(SBOs)

1. 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。
2. エックス線画像形成の原理を概説できる。
3. 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる。
4. 口内法およびパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。
5. 口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像における解剖学的指標を表記できる。
6. う蝕と歯周病および顎骨に生じる病変(嚢胞、腫瘍、炎症、骨折等)のエックス線所見を概説できる。
7. 超音波検査、CT検査(コーンビームCTを含む)、およびMRIの原理と特徴を概説できる。
8. 放射線治療と患者の口腔管理を概説できる。
9. エックス線撮影の準備ができる。
10. 口内法エックス線撮影補助ができる。
11. パノラマエックス線撮影補助ができる。
12. フィルムの現像ができる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯科医療と放射線	歯科におけるエックス線検査の意義	歯科におけるエックス線検査の意義について講義する	6	水頭
2	歯科医療と放射線	放射線とその性質	放射線、特にエックス線の性質を講義する	1	水頭
3	歯科医療と放射線	放射線の人体への影響と防護	放射線の人体への影響と防護について講義する	1	水頭
4	エックス線画像の形成	フィルム及びデジタル画像系の画像形成	フィルム及びデジタル画像系の画像形成について講義する	2	水頭
5	歯科における画像検査	口内法エックス線検査	口内法エックス線検査について講義する	3,4	水頭
6	歯科における画像検査	口外法エックス線検査	口外法エックス線検査について講義する	3,4	水頭
7	歯科における画像検査	その他の画像検査	超音波検査、CT検査、MRI検査などについて講義する	7	水頭
8	放射線治療	放射線治療と口腔管理	放射線治療と口腔管理について講義する	8	水頭
9	撮影実習	口内法撮影実習	口内法の相互撮影実習を行う	9,10,12	水頭
10	撮影実習	口内法撮影実習	口内法の相互撮影実習を行う	9,10,12	水頭
11	撮影実習	口内法撮影実習	口内法の相互撮影実習を行う	9,10,12	水頭
12	撮影実習	パノラマ撮影実習	パノラマ撮影法の相互撮影実習を行う	9,11,12	水頭
13	撮影実習	パノラマ撮影実習	パノラマ撮影法の相互撮影実習を行う	9,11,12	水頭
14	撮影実習	パノラマ撮影実習	パノラマ撮影法の相互撮影実習を行う	9,11,12	水頭
15	まとめ	エックス線解剖と全体のまとめ	エックス線解剖学の説明と講義全体のまとめを講義する	5,6	水頭

16	練習問題	練習問題	講義内容に沿った練習問題を皆で解答し、解説する	1～12	水頭

教科書

歯科衛生学シリーズ　歯科放射線学　第2版　（全国歯科衛生士教育審議会　監修　医歯薬出版株式会社）

参考書

講義プリントなど

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	う蝕予防処置法Ⅱ
学年	2年次	学期	通 年
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	単 位
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(2)、実習室
担当教員	溝江 里美	歯科診療所で歯科衛生士として実務経験有り	

授業の目的(GIO)

歯科衛生士としてう蝕予防処置業務ができるために必要な知識，技術，態度を習得する。

授業の概要

う蝕予防に必要な知識に基づいて、フッ化物応用法，小窩裂溝填塞法，う蝕活動性試験の知識・技術を習得する。

到達目標(SBOs)

1. フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる。
2. フッ化物によるう蝕予防法を実施できる。
3. 歯周病に関する検査を列挙できる。
4. う蝕活動性試験を説明できる。
5. 小窩裂溝填塞法について説明できる。
6. フッ化ジアンミン銀応用の効果、作用機序、術式を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物応用	フッ化物の毒性と急性中毒への対応	1	溝江
2	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物応用	練習問題	1	溝江
3	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物応用	フッ化物歯面塗布(相互実習)	2	溝江
4	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物応用	フッ化物歯面塗布(相互実習)	2	溝江
5	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物応用	フッ化物洗口(相互実習)	2	溝江
6	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物応用	フッ化物洗口(相互実習)	2	溝江
7	Ⅲ編2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	歯周病に関する検査	ペリオスクリーン	3	溝江
8	Ⅲ編2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	う蝕に関する検査	う蝕活動性試験	4	溝江
9	Ⅲ編2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	う蝕に関する検査	う蝕活動性試験	4	溝江
10	チェックテスト②		う蝕活動性試験		溝江
11	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	小窩裂溝填塞法	適応，術式，注意事項	5	溝江
12	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	小窩裂溝填塞法	適応，術式，注意事項	5	溝江
13	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	小窩裂溝填塞法	マネキン実習	5	溝江
14	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	小窩裂溝填塞法	マネキン実習	5	溝江
15	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化ジアンミン銀	取り扱い，術式	6	溝江
16	チェックテスト②		小窩裂溝填塞		溝江

教科書

最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法 授業態度、出席状況、小テスト(筆記)を総合的に評価し合否を判定する。
備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	歯周病予防処置法Ⅱ
学年	2年次	学期	通 年
時間数	68 時間 (90 分 × 34 回)	単位数	単 位
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(2)、実習室
担当教員	溝江 里美	歯科診療所で歯科衛生士として実務経験有り	

授業の目的(GIO)

歯周病を予防し，人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的知識，技術および態度を習得する。

授業の概要

1年次で修得した知識と技術をもとに，歯周病予防のための適切な技術をマネキン実習および相互実習で習得する。

到達目標(SBOs)

1. 歯・歯周組織の検査(プロービング)ができる。
2. 歯・歯肉・口腔の検査ができ、診査の結果を説明できる。
3. シックル型スケーラーの操作ができる。
4. 超音波スケーラーの目的・使用方法を説明できる。
5. 超音波スケーラーを操作できる。
6. エアスケーラーの目的・使用方法を説明できる。
7. エアスケーラーを操作できる。
8. 歯面清掃の意義、歯面清掃器材の種類と用途を説明できる。
9. 歯面研磨・歯面清掃方法を選択し、実施できる。
10. シャープニングの意義を説明できる。
11. シャープニングができる。
12. 口腔清掃や歯周疾患，う蝕の指標を説明できる。
13. 画像から得られる情報を説明できる。
14. 歯周病に関連する検査を列挙できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	プロービング シックル型スケーラー	相互実習 操作部位:上顎前歯部	1，2，3	溝江
2	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	プロービング シックル型スケーラー	相互実習 操作部位:上顎前歯部	1，2，3	溝江
3	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	プロービング シックル型スケーラー	相互実習 操作部位:下顎臼歯部	1，2，3	溝江
4	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	プロービング シックル型スケーラー	相互実習 操作部位:下顎臼歯部	1，2，3	溝江
5	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	プロービング シックル型スケーラー	相互実習 操作部位:上顎臼歯部	1，2，3	溝江
6	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	プロービング シックル型スケーラー	相互実習 操作部位:上顎臼歯部	1，2，3	溝江
7	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シャープニング	目的，種類，方法	10，11	溝江
8	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シャープニング	目的，種類，方法	10，11	溝江
9	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シャープニング	実習	10，11	溝江
10	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シャープニング	実習	10，11	溝江
11	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	機械スケーラー	超音波スケーラー，エアスケーラー	2，3	溝江
12	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	機械スケーラー	超音波スケーラー，エアスケーラー	2，3	溝江
13	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	機械スケーラー	相互実習 超音波スケーラー，エアスケーラー	5,7	溝江
14	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	機械スケーラー	相互実習 超音波スケーラー，エアスケーラー	5,7	溝江

15	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	機械スケーラー	相互実習 超音波スケーラー，エアスケーラー	5,7	溝江
16	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	機械スケーラー	相互実習 超音波スケーラー，エアスケーラー	5,7	溝江
17	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
18	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
19	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
20	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
21	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
22	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
23	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
24	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
25	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
26	Ⅲ編3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置	基礎実習評価試験練習		1,3,9	溝江
27	Ⅲ編2章　歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	分析のためのデータ	口腔衛生状態の指数	12	溝江
28	Ⅲ編2章　歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	分析のためのデータ	口腔衛生状態の指数	12	溝江
29	Ⅲ編2章　歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	分析のためのデータ	歯周疾患の指数	12	溝江
30	Ⅲ編2章　歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	分析のためのデータ	歯周疾患の指数	12	溝江
31	Ⅲ編2章　歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	分析のためのデータ	う蝕の指標	12	溝江
32	Ⅲ編2章　歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	分析のためのデータ	口腔内写真 エックス線写真	13，14	溝江
33	筆記試験				溝江
34	フィードバック				溝江

教科書

最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論
最新歯科衛生士教本　歯周病学　第2版

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況、実習態度、確認試験（筆記試験）の成績で総合的に評価する。

備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	歯科保健指導Ⅱ
学年	2年次	学期	通 年
時間数	90 時間 (90 分 × 45 回)	単位数	単 位
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(2)、ファントム実習室
担当教員	福井 かおり　歯科診療所で歯科衛生士として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

1年次で学んだ人々の歯と口腔の健康を支援するための基本的な知識や技術を実践するために必要な問題解決能力やコミュニケーション能力を習得する。

授業の概要

歯科衛生過程の進め方，ライフステージに対応した歯科衛生介入，歯科衛生介入としての歯科保健指導，配慮を要する者への歯科衛生介入，大規模災害被災者など。

到達目標(SBOs)

1. 健康教育の対象と場の特徴を概説できる。
2. 健康教育の評価を説明できる。
3. 健康教育活動の方法を説明できる。
4. 地域歯科保健活動のフィールドを説明できる。
5. 健康教育の計画立案ができる。
6. 地域歯科保健活動の工夫と留意点を説明できる。
7. 各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。
8. 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。
9. 各ライフステージ別の食生活指導ができる。
10. 対象者に応じたコミュニケーションがとれる。
11. 対象者に応じた口腔衛生指導、食生活指導、生活習慣指導ができる。
12. う蝕のリスクに応じた口腔衛生指導、食生活指導、生活習慣指導ができる。
13. 要介護高齢者の特徴を説明できる。
14. 要介護高齢者への歯科衛生介入を実施できる。
15. 障害児者の特徴を説明できる。
16. 障害児者への歯科衛生介入を実施できる。
17. 大規模災害被災者の特徴を説明できる。
18. 大規模災害時の歯科保健活動を説明できる。
19. 歯科衛生過程を概説できる。
20. 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。
21. 歯科衛生過程における各構成要素を説明できる。
22. 歯科衛生過程における書面化(業務記録)の意義を説明できる。
23. 情報収集の目的や得られる情報を説明できる。
24. 医療面接の目的を説明できる。
25. 対象者の全身的な健康状態について把握できる。
26. 対象者の認知および精神状態、生活に関する情報を把握できる。
27. 対象者の生活習慣と生活環境を把握できる。
28. 口腔機能管理に関する指導ができる。
29. 非感染性疾患(NCDs)の症例に合わせた歯科保健指導ができる。
30. 口腔衛生状態を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	地域歯科保健活動における健康教育	健康教育の概要 健康教育の進め方	健康教育の目標 事業として行われる健康教育	1	福井
2	地域歯科保健活動における健康教育	健康教育の方法 健康教育の評価	媒体(教材)の活用 地域歯科保健の評価	2，3	福井
3	地域歯科保健活動のフィールド	学校 (小学校・中学校・高等学校)	学校の教育課程，歯科保健指導 学習指導案	4，5	福井
4	地域歯科保健活動のフィールド	事業所	特定健康診査・特定保健指導	6	福井
5	地域歯科保健活動のフィールド	保健所・市町村保健センター 地域・病院・施設	市町村における健康づくり 地域支援授業における介護予防事業	6	福井

6	ライフステージに対応した歯科衛生介入	個別歯科保健指導	媒体(教材)の作製 指導練習	5	福井
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入	個別歯科保健指導	媒体(教材)の作製 指導練習	5	福井
8	ライフステージに対応した歯科衛生介入	集団歯科保健指導	媒体(教材)の仕上げ 指導練習	5	福井
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入	集団歯科保健指導	媒体(教材)の仕上げ 指導練習	5	福井
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入	妊産婦期	妊産婦の一般的特徴，口腔の特徴 妊産婦の歯科衛生介入	7－9	福井
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入	妊産婦期	妊産婦の栄養 妊娠期と授乳期の食生活指導	7－9	福井
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入	乳児期	乳児期の一般的特徴，口腔の特徴 乳児期の歯科衛生介入	7－9	福井
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入	乳児期	乳児期の栄養，離乳期の栄養摂取 乳児期の食生活指導	7－9	福井
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入	幼児期	幼児期の一般的特徴，口腔の特徴 幼児期の歯科衛生介入	7－9	福井
15	ライフステージに対応した歯科衛生介入	幼児期	幼児期の食生活の特徴と栄養，間食 食生活指導	7－9	福井
16	ライフステージに対応した歯科衛生介入	学齢期	学齢期の一般的特徴，口腔の特徴 学齢期の歯科衛生介入	7－9	福井
17	ライフステージに対応した歯科衛生介入	学齢期	学齢期の食生活の特徴と栄養 食育の重要性，食生活指導	7－9	福井
18	ライフステージに対応した歯科衛生介入	青年期	青年期の一般的特徴，口腔の特徴 青年期の歯科衛生介入	7－9	福井
19	ライフステージに対応した歯科衛生介入	青年期	青年期の食生活の特徴と栄養 青年期の食生活指導	7－9	福井
20	ライフステージに対応した歯科衛生介入	成人期	成人期一般的特徴，口腔の特徴 成人期の歯科衛生介入	7－9	福井
21	ライフステージに対応した歯科衛生介入	成人期	成人期の食生活の特徴と栄養 食生活指導、生活習慣病予防など	7－9	福井
22	ライフステージに対応した歯科衛生介入	個別歯科保健指導	う蝕予防における個別保健指導 (1年生対象)	10－12	福井
23	ライフステージに対応した歯科衛生介入	集団歯科保健指導	集団保健指導 媒体発表 (幼児期対象)	10－12	福井
24	ライフステージに対応した歯科衛生介入	老年期	老年期の一般的特徴，口腔の特徴 老年期の歯科衛生介入	7－9	福井
25	ライフステージに対応した歯科衛生介入	老年期	老年期の植生威圧の特徴と栄養 低栄養の要因，食事摂取基準	7－9	福井
26	ライフステージに対応した歯科衛生介入	老年期	老年期の食生活指導 摂食嚥下障害と栄養	7－9	福井
27	配慮を要する者への歯科衛生介入	要介護高齢者	要介護高齢者の一般的特徴 口腔の特徴	13，14	福井
28	配慮を要する者への歯科衛生介入	要介護高齢者	要介護高齢者の歯科保健指導 食生活の特徴と栄養，食生活指導	13，14	福井
29	配慮を要する者への歯科衛生介入	障害児者	障害児者の一般的特徴 障害児者の口腔の特徴	15，16	福井
30	配慮を要する者への歯科衛生介入	障害児者	障害児者の歯科衛生介入 障害児者の食生活の特徴と栄養	15，16	福井
31	配慮を要する者への歯科衛生介入	大規模災害被災者	災害と避難施設，災害時の歯科保健医療 アセスメントと支援活動	17，18	福井
32	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要	歯科衛生過程とは，6つの構成要素 など	19，20	福井
33	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の各構成要素	歯科衛生アセスメント，診断，計画	21	福井
34	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の各構成要素	歯科衛生介入、評価、記録(書面化)	21，22	福井
35	歯科衛生過アセスメントとしての情報収集と情報整理	患者(対象者)からの情報収集	主観的情報の把握，医療面接	23，24	福井

36	歯科衛生過アセスメントとしての情報収集と情報整理	全身の健康状態の把握 認知機能の把握	器質的、機能的問題の把握 認知機能の評価方法	25，26	福井
37	歯科衛生過アセスメントとしての情報収集と情報整理	生活環境と生活背景の把握 生活習慣の把握	社会構造の変化、虐待への対応 食習慣・喫煙・飲酒など，保健行動	27	福井
38	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔機能管理に関わる指導	口腔機能の発達に関連する指導 口腔機能の低下に関連する指導	28	福井
39	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	生活習慣の指導	非感染性疾患（NCDs）	29	福井
40	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	相互実習	口腔内観察，医療面接， PCR，ブラッシング指導	10－12，30	福井
41	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	相互実習	口腔内観察，医療面接， PCR，ブラッシング指導	10－12，30	福井
42	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	相互実習	口腔内観察，医療面接， PCR，ブラッシング指導	10－12，30	福井
43	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	相互実習	口腔内観察，医療面接， PCR，ブラッシング指導	10－12，30	福井
44	期末試験				福井
45	解説・まとめ		期末試験の解説		福井

教科書

歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）

参考書

歯科衛生学シリーズ　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1　保健生態学（医歯薬出版）
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション　第3版（医歯薬出版）

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況、提出物、筆記試験等を総合的に評価し合否を判定する。

備考

科目分野	専 門 分 野	科目名	歯科診療補助法Ⅱ
学年	2年次	学期	通 年
時間数	120 時間 (90 分 × 60 回)	単位数	単 位
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(2)、実験室、実習室
担当教員	宮川 章代	歯科診療所で歯科衛生士として実務経験有り	

授業の目的(GIO)

1年次に習得したさまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために必要である、専門的な歯補助に関する知識、技術及び態度の向上をはかる。

授業の概要

歯科臨床と診療補助、主な全身疾患とその対応、周術期における歯科診療の補助、歯科訪問診療における対応など。

到達目標(SBOs)

1. 印象材の種類と基本的性質を説明できる。
2. 各種印象材を練和できる。
3. 概形印象の採得ができる。
4. 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。
5. 模型用材料の取り扱いができる。
6. 合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる。
7. 各種合着・接着材・仮着用材料の取り扱いができる。
8. 仮封材の種類と基本的性質を説明できる。
9. 仮封材の取り扱いができる。
10. 口腔外科治療の特徴を説明できる。
11. 口腔外科治療の手順に沿った器材を準備することができる。
12. 歯科麻酔の特徴を説明できる。
13. 歯科麻酔の手順に沿った器材を準備することができる。
14. 保存修復の手順に沿った器材を準備することができる。
15. 歯内療法の特徴を説明できる。
16. 歯内療法の手順に沿った器材を準備することができる。
17. 歯周外科治療の特徴を説明できる。
18. 歯周外科治療の手順に沿った器材を準備することができる。
19. 歯科補綴治療の特徴を説明できる。
20. 歯科補綴治療の手順に沿った器材を準備することができる。
21. プロビジョナルレストレーションの作製手順を説明できる。
22. プロビジョナルレストレーションの作製ができる。
23. 矯正歯科治療の特徴を説明できる。
24. 矯正歯科治療の手順に沿った器材を準備することができる。
25. 小児歯科治療の特徴を説明できる。
26. 小児歯科治療の手順に沿った器材を準備することができる。
27. 口腔内写真の撮影と管理を実施できる。
28. 隔壁法に用いる器具の操作ができる。
29. コンポジットレジン修復の器材や材料の準備ができる。
30. 代謝・内分泌疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
31. 消化器疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
32. 循環器疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
33. 血液疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
34. 呼吸器疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
35. 腎・泌尿器疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
36. 免疫・膠原病の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
37. 感染症の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
38. 神経系疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
39. 精神疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
40. がんの概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
41. 口腔がんの概要や口腔所見の特徴と口腔ケアの対応を説明できる。

42. 産科・婦人科疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。
43. 周術期における口腔機能管理の概要を述べることができる。
44. 周術期の病態とその治療法を説明できる。
45. 周術期の歯科治療時の役割を説明できる。
46. 手術における術前、術中、術後の歯科衛生士の役割を説明できる。
47. 歯科訪問診療の概要を述べることができる。
48. 必要な器材・薬剤と治療の流れを説明できる。
49. 診療時の適切な患者対応を説明できる。
50. 訪問診療における感染予防対策を説明できる。
51. 訪問診療における口腔健康管理を説明できる。
52. 歯科診療補助の業務内容と法的解釈を説明できる。
53. スタンダードプレコーションを具体的に説明できる。
54. 滅菌、消毒、洗浄の方法について説明できる。
55. 医療廃棄物の分類と分別を説明できる。
56. バキュームの基本動作を実施できる。
57. ラバーダム防湿を実施できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	5章　歯科臨床と診療補助	歯周外科時の診療補助	歯周外科治療と診療補助の特徴，歯周外科治療の例と診療補助の流れなど	17,18	宮川
2	5章　歯科臨床と診療補助	補綴治療時の診療補助	補綴治療の例と診療補助の特徴，診療補助の流れ	19,20	宮川
3	5章　歯科臨床と診療補助	口腔外科治療時の診療補助	口腔外科治療と診療補助の特徴、口腔外科治療の例と診療補助の流れ	10,11	宮川
4	5章　歯科臨床と診療補助	口腔外科治療時の診療補助	口腔外科治療と診療補助の特徴、口腔外科治療の例と診療補助の流れ	10,11	宮川
5	5章　歯科臨床と診療補助	歯科麻酔時の診療補助	歯科麻酔時の診療補助の特徴、局所麻酔の基本的知識、局所麻酔の診療の流れ	12,13	宮川
6	5章　歯科臨床と診療補助	歯科麻酔時の診療補助	吸入鎮静・静脈内鎮静と診療補助の流れ、全身麻酔での診療補助の流れ	12,13	宮川
7	5章　歯科臨床と診療補助	小テスト①	歯周外科～歯科麻酔の診療補助	10～13 17～20	宮川
8	5章　歯科臨床と診療補助	フィードバック		10～13 17～20	宮川
9	5章　歯科臨床と診療補助	相互実習	アルジネート印象材による概形印象採得	1,2,3	宮川
10	5章　歯科臨床と診療補助	相互実習	アルジネート印象材による概形印象採得	1,2,3	宮川
11	5章　歯科臨床と診療補助	相互実習	アルジネート印象材による概形印象採得	1,2,3、	宮川
12	5章　歯科臨床と診療補助	相互実習	アルジネート印象材による概形印象採得	1,2,3	宮川
13	5章　歯科臨床と診療補助	相互実習	アルジネート印象材による概形印象採得	1,2,3、	宮川
14	5章　歯科臨床と診療補助	模型材	模型材（普通石膏）練和実習	4,5	宮川
15	5章　歯科臨床と診療補助	相互実習(1年生患者)	アルジネート印象材による概形印象採得	3	宮川
16	5章　歯科臨床と診療補助	相互実習（1年生患者）	アルジネート印象材による概形印象採得	3	宮川
17	7章　歯科臨床で扱う歯科材料（1年生の復習）	仮封材・合着材・接着剤	仮封・セメント練和　実習	6,7,8,9	宮川
18	7章　歯科臨床で扱う歯科材料	仮封材・合着材・接着剤	仮封・セメント練和　実習	6,7,8,9	宮川
19	5章　歯科臨床と診療補助	保存修復時の診療補助	共同動作	14	宮川

20	5章　歯科臨床と診療補助	保存修復時の診療補助	共同動作	14	宮川
21	5章　歯科臨床と診療補助	歯内療法時の診療補助	共同動作	15,16	宮川
22	5章　歯科臨床と診療補助	歯内療法時の診療補助	共同動作	15,16	宮川
23	5章　歯科臨床と診療補助	口腔外科治療時の診療補助	共同動作	10,11	宮川
24	5章　歯科臨床と診療補助	口腔外科治療時の診療補助	共同動作	10,11	宮川
25	5章　歯科臨床と診療補助	保存修復時の診療補助	共同動作	14	宮川
26	5章　歯科臨床と診療補助	歯内療法時の診療補助	共同動作	15,16	宮川
27	5章　歯科臨床と診療補助	口腔外科治療時の診療補助	共同動作	10,11	宮川
28	5章　歯科臨床と診療補助	口腔外科治療時の診療補助	共同動作	10,11	宮川
29	5章　歯科臨床と診療補助	矯正治療時の診療補助	矯正歯科治療と診療補助の特徴、矯正治療の例と診療補助の流れ	23,24	宮川
30	5章　歯科臨床と診療補助	小児歯科治療時の診療補助	小児の診療と診療補助の特徴、小児の治療の例と診療補助の流れ	25,26	宮川
31	5章　歯科臨床と診療補助	小テスト③	矯正治療時、小児歯科治療時（小テスト）など	23～26	宮川
32	5章　歯科臨床と診療補助	フィードバック			宮川
33	5章　歯科診療で扱う歯科材料	成形歯冠修復の補助	充填・研磨実習	28, 29	宮川
34	5章　歯科診療で扱う歯科材料	成形歯冠修復の補助	充填・研磨実習	28, 29	宮川
35	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	代謝・内分泌疾患	糖尿病，骨粗鬆症，甲状腺疾患	30	宮川
36	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	消化器疾患	胃・食道逆流症，胃炎，胃がん，肝炎など	31	宮川
37	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	循環器疾患，血液疾患	心疾患，高血圧，貧血，白血病，血友病	32, 33	宮川
38	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	呼吸器疾患	肺炎，気管支喘息，慢閉塞性肺疾患など	34	宮川
39	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	腎疾患，免疫・膠原病	腎疾患，アレルギー，膠原病，シェーグレン症候群など	35, 36	宮川
40	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	感染症，神経系疾患	ウイルス性肝炎，カンジダ，AISD，脳血管疾患，てんかんなど	37, 38	宮川
41	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	精神疾患	認知症，心身症，うつ病，統合失調症，発達障害	39	宮川
42	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	がん，産科・婦人科疾患	がん、口腔がん，妊娠，更年期障害	40, 41, 42	宮川
43	Ⅱ編　1章　主な全身疾患とその対応	小テスト④	Ⅱ編　1章の内容（筆記）	30～42	宮川
44	まとめ		小テスト解説		宮川
45	Ⅱ編　2章　周術期における歯科診療の補助	周術期における口腔機能管理	周術期口腔機能管理の概要，病態の把握など	43, 44	宮川
46	Ⅱ編　2章　周術期における歯科診療の補助	周術期における口腔機能管理	周術期口腔治療時の対応，保険制度における周術期口腔機能管理など	45, 46	宮川
47	Ⅱ編　3章　歯科訪問診療における対応	歯科訪問診療補助	歯科訪問の診療補助の概要，流れなど	47, 48	宮川
48	Ⅱ編　3章　歯科訪問診療における対応	歯科訪問診療補助	歯科訪問診療に必要な器材、感染予防対策など	49～51	宮川
49	Ⅱ編　3章　歯科訪問診療における対応	小テスト⑤	Ⅱ編　2，3章の内容（筆記）	47～51	宮川

50	まとめ		小テスト解説		宮川
51	5章　歯科診療と診療補助	補綴治療時の診療補助	プロビジョナルレストレーション実習	21,22	宮川
52	5章　歯科診療と診療補助	補綴治療時の診療補助	プロビジョナルレストレーション実習	21,22	宮川
53	5章　歯科診療と診療補助	補綴治療時の診療補助	プロビジョナルレストレーション実習	21，22	宮川
54	5章　歯科診療と診療補助	実技テスト	プロビジョナルレストレーション	21，22	宮川
55	歯科診療補助論復習	歯科診療補助の概念，医療安全，感染予防	歯科診療補助の業務，標準予防策，滅菌法，産業廃棄物など	52～55	宮川
56	歯科診療補助論復習	歯科診療で扱う歯科材料	印象材，模型材，合着・接着材，仮着材など	1～9	宮川
57	歯科診療補助論復習		保存修復、歯内療法、歯周外科、補綴治療の診療補助	14～20	宮川
58	歯科診療補助論復習		口腔外科、歯科麻酔時、矯正治療，小児歯科治療時の診療補助	10～13 23～26	宮川
59	期末試験				宮川
60	まとめ		試験解説		宮川

最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版　（医歯薬出版）

参考書

最新歯科衛生士教本　歯科機器　（医歯薬出版）
最新歯科衛生士教本　歯科材料　（医歯薬出版）

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況、小テスト、基礎実習評価試験・課題提出（実技）、期末試験の結果を総合的に評価し60点を合格とする。

備考

科目分野	選択必修科目	科目名	医療コミュニケーション学
学年	2年次	学期	前期
時間数	16 時間 （90 分 × 8 回）	単位数	1 単位
授業形態	講義、演習	使用場所	2F教室(2)
担当教員	伊賀 弘起	大学病院で歯科医師としての臨床経験あり	

授業の目的(GIO)

医療の担い手の一員として、患者、職場、他職種との信頼関係を築くために必要なコミュニケーションの基礎、医療面接等を学習する。

授業の概要

コミュニケーションと医療面接の基礎を学習することで、対人関係の基本的な知識・技術・態度を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 医療面接に関する基本的態度を説明できる
2. 医療面接に用いられる基本的技術について説明できる。
3. インフォームド・コンセントについて説明できる。
4. 個人情報保護，利益相反ににについて説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	医療者・患者関係	医療現場でのコミュニケーションの基礎	ラポール、医療面接と問診	1	伊賀
2	医療者・患者関係	医療現場でのコミュニケーションの基礎	医療面接の進め方1	1,2	伊賀
3	医療者・患者関係	医療現場でのコミュニケーションの基礎	医療面接の進め方2	1,2	伊賀
4	医療者・患者関係	医療現場でのコミュニケーションの基礎	医療面接のロールプレイング(1)	2	伊賀
5	医療者・患者関係	医療現場でのコミュニケーションの基礎	医療面接のロールプレイング(2)	2	伊賀
6	医療倫理	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの定義	3	伊賀
7	研究と医療倫理	倫理的配慮	インフォームド・チョイス、セカンドオピニオン	3	伊賀
8	研究と医療倫理	倫理的配慮	個人情報保護法、倫理審査、利益相反(COI)	4	伊賀

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 （第2版）（全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、合否を判定する。

備考

適宜、プリントを配布する。